

会 議 録

会議の名称	令和3年度第3回小金井みんなの給食委員会会議録
事務局	学校教育部 学務課
開催日時	令和3年12月6日(月) 午後3時～午後4時30分
開催場所	西庁舎第五会議室
出席委員	不破委員、宇野委員、奥山委員、鈴木委員、片平委員、伊熊委員、吉岡委員、松田委員、坂口委員、川上委員、五十嵐委員、大友委員、印牧委員
欠席委員	内田委員、澁谷委員、高野委員
会議次第	(1)一言コメント (2)学務課からの報告 (3)講演会について (4)その他
主な意見等	(1)一言コメント (委員) ・8月の下旬から給食が始まったが、新型コロナウイルスのデルタ株が大流行していたので、給食の開始に不安があったが、幸い大きな混乱もなく、このまま無事に二学期が終えられるようにしたい。現在は、感染者数が少ないが、学校では、引き続きコロナ対応として、換気、給食の前後の手洗いの徹底などの対応をしている。これからもっと寒くなるので、インフルエンザやノロウイルスにも気を付けて、安全に給食を提供していきたい。 ・給食室が寒くなってきたので、健康管理に気を付けていきたいと思っている。最近子供たちも良く食べてくれていて、残菜が少ない。たくさん食べて体調を崩さないようにしてもらいたい。 ・社内の編成があり担当を外れることになった。2年半という間であったが、小金井市の良いところは、残菜が非常に少ないところ、これは先生方の工夫の結果だと思っている。 ・弊社でもコロナ、インフルエンザ、ノロウイルスによる体調不良を非常に心配しているが、体調管理をしっかり行い、

支障が無いように運営して行きたいと考えている

- ・コロナも落ち着いてきたが、オミクロン株が出てきているので、継続して体調管理を徹底し、安全安心な給食提供を心掛けています。南小学校で手作りパンを提供したが、非常に好評で残食が三つだけだった。今後も月に1回提供する予定。
- ・コロナは落ち着いているが、気温が下がりこれからノロウイルスの流行する時期になるので、感染対策を行い安全安心な給食の提供を続けていきたい。
- ・夏は、冷たい物をいかに冷やした状態で提供できるかということを行ってきたが、冬は温かいものをいかに温かい状態で提供できるかを栄養士の先生と相談しながら工夫して対応している。
- ・話を聞いていて調理の方の体調管理だったり、ありがたく思う。
- ・町田市の友人から町田の中学校は、給食が無く仕出し弁当で、今後給食が提供されるようになるのが4年後だという話を聞いた。小金井の温かく野菜をたくさん使用した栄養バランスの取れた給食の提供が当たり前のように思っていたが、身近にそういう所があることに驚いている。
- ・小金井の給食には、かつて、大変お世話になった。時間があったら教えてもらいたいことがある。他の自治体で麺の揚げ過ぎで歯が欠けたりしたことがあったが、作り慣れないものを作る時に、事故を起こさぬよう工夫・注意されているのか聞きたい。
- ・給食現場で働く人の話を聞きたいし、外部に伝えていきたいと思っている。一般の保護者や市民の方たちに理解を広げられようにしたい。

ある小学校の学校運営協議会で保護者が給食を食べる機会があったが、おいしくなかったという話を聞いてショックを受けている。

- ・コロナの感染者数は落ち着いているが、引き続きコロナ対策として、黙食や前を向いて食べるなどの対策は続けている。

最近、栄養士会として考案したメニューで野菜、味噌、醤油、調味料にこだわった、すいとんが入った江戸こがね汁を提供した。

(2)学務課からの報告

(事務局)

小金井第三小学校給食調理委託事業者選考について報告させていただきます。令和3年11月17日(水)に萌え木ホールで二次審査を行った。一次審査通過事業者によるプレゼンテーション、ヒアリングによる選考の結果、契約に進む事業者として、葉隠勇進株式会社が選定されたことを報告する。

(3) 講演会について

(事務局)

講演会に係るこれまでの経過について報告させていただく。以前に提案された講演会の案について、講演の一部を栄養士が行うという内容であったので、栄養士会に確認をさせていただいた。栄養士会からの回答は、業務多忙のためお受けできないが、栄養士も学ぶことができる講演会を企画して欲しいとのことであった。本日、配布した資料は、この回答を受けて、新たに企画した講演会の案である。内容について検討をお願いします。

(会長)

講演会の案について、提案者である宇野委員の説明をお願いします。

(宇野委員)

参加者は、保護者、市民の他に農家の方をお招きし、ディスカッションなどを通じ、会話ができればと思っている

時間は、委員会と同程度の時間が良いのではと考えている。午後3時から午後5時位に終われば良いと考えている。

会場は、萌え木ホールまたは小学校の体育館と考えている。

告知方法は、チラシ、市報、市HPでの募集を考えている。

保護者の方の意見をいただきたいということで、アンケートを実施したいと考えている。

プログラムは、約100分程度の案を考えてみた。準備のため、45分前に関係者が集まり、講演会45分、質疑応答10分、グループディスカッション10分、全体でシェアする時間を15分見ている。最後にアンケートを回収して終了する。

講師の候補として三名の方を挙げさせていただいた。まず、お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系教授の赤松先生である。今、一番話を伺ってみたい方で、行動科学に基づいた食育というところで、残食を減らすためにどうすればいいとか、外食する際にも自分の適量を考えて注文するというようなことを提案されていて、とても興味を持っている。他のお二方は、給食のシンポジウムみたいなところで講演を伺ったことがある。全国の給食の在り方や地産地消について、豊富な例などお持ちの方で、以前、名刺交換もさせていただき、講演会を行った場合に来てくれるか聞いたが、いい返事をいただいている。

(会長)

提案について説明があったが、まずは、開催目的からアンケートまで意見があったらお願いします。

(委員)

開催する時間が気になる。小学校低学年の子が同席することを想定しているか伺いたい。

(宇野委員)

小学生だったら同席しても構わないと思っている。

(委員)

保護者を対象にしているのであれば、子供不可というのは難しいと思う。子供が帰ってくる時間帯になるが、子供を含めた定員か。

(事務局)

会場の定員を考えれば、子供も定員人数に含めるべきだと考えている。

(宇野委員)

萌え木ホールの定員を50人としたが、今の状況でも50人か。定員自体はもっと入れると思うが。

(事務局)

両方の部屋を使った場合、90人位入れると思うが、講演会を運営する委員、事務局などの関係者も含めて考える必要がある。また、コロナの感染が拡大すると半分の人数になる。

(宇野委員)

保育はつくのか。

(事務局)

予算を取っていない。

(会長)

ここまでの議論を整理させていただくと、現時点で、コロナが終息した状況を想定することは難しいと思うので、萌え木ホールを会場とした場合は、定員を50人とした方が良いのではと思う。また、お子さんが同席する場合は、定員に含めるという形で良いか。

—異議無し—

では、次の項目、募集方法、アンケートについては、この内容でよろしいか。

—異議なし—

続いてプログラム案について、ご検討をお願いする。

(委員)

コロナ禍で講演会の開催自体難しいと考えているが、ディスカッションは厳しいと思っている。また、講演45分間は短いと思う。

(宇野委員)

講演の時間について、教えていただきたい。

(委員)

講演にもよるが、60分とかそれ以上の講演もある。

(会長)

有名な方の講演では、60分でも短い印象がある。

(委員)

最低60分は必要だと思う。また、コロナ禍の開催なので、ディスカッションについても配慮が必要だと思う。

(会長)

それでは、講演時間は60分で良いか。

－異議無し－

次にディスカッションだが、コロナの終息が見込めない状況で参加者に対する配慮、気にされる方もいるのではないか。

(委員)

今、オミクロン株が出てきている状況を考える必要があるのではないか。

(委員)

話を伺っていたが、コロナの対応を心配しないといけないと思う。萌え木ホールだとそこまでの広さは無いので、グループディスカッションは今の状況を考えて難しいと思う。質疑応答の時間を長めにとることで、感想を会場内で共有する形を今年は取った方が良いのではと思う。

(宇野委員)

質疑応答だけでなく感想も入れて時間を増やしても良いのではと思うが。

(委員)

全員は難しいと思うが、数人なら良いと思う。

(事務局)

司会について確認させていただく。どのような方に司会をお願いする予定か。

(宇野委員)

委員会主催なので委員を想定している。

(会長)

整理する。講演は60分、質疑応答20分ということで良いか。

(委員)

保護者としては、小金井の給食のメニューを作っている方がわかると開催の意味があるのかなと思う。自己紹介みたいな形でも良いと思うし、ちょっとしたエピソードなど聞けたらと思う。

(宇野委員)

いい意見だと思う。講演会の最初に、さらっと紹介するというのはどうか。また、質疑応答の時に司会が栄養士や調理員に話を振るという形ではどうか。

(委員)

講演会は、基本的に講師の方に来ていただき、講演を聞く

という場なので、開会の前に栄養士や調理員の紹介や話をするのはおこがましいと感じる。

(宇野委員)

参加される市民、保護者にとって給食現場の方たちと同じ場で話を聞いていることが貴重だと感じていて、講師の方も会場にどんな方が来ているのかわかる方がやる気を高めるのでないかと思う。

(事務局)

これから事前に募集をかけると思うが、誰が参加されるのか事前に把握ができると思うので、打ち合わせ時にお伝えすればいいと思う。

(委員)

対象者が保護者というイメージでいると、この先生の講演を聞くだけで終わってしまうなら、保護者が行かなくてもいいのかなって気がする。ただ、小金井の給食に関心のある保護者が行くのであれば、主催する側としては、給食現場の方の自己紹介とか話があったほうが良いと思う。講演会が、栄養士や調理員の勉強の場で、保護者が二番目という位置づけが、意見が食い違う原因なのではないか。

(委員)

栄養士が勉強したいのであれば、そのような場に行けばいいという話で、保護者や市民を巻き込んで行うところを考えて欲しい。

(委員)

小金井の給食調理現場で働く方の顔が見れて、一言あれば位な感じなので、講師の方に失礼とかそういうことではないと思うがいかがか。

(会長)

オーソドックスな講演会ですと講師の紹介はありますが、参加者の紹介というのは経験がない。質疑応答時に話すことはあるが。

(委員)

保護者が参加したいかどうかの指標の一つとして言っている。

(委員)

まずは、講師の話を聞いた後、どのような方が参加されているか司会の方が説明し、質疑応答、感想の中で数人の方が話をするという事で意義はあると思う。

(宇野委員)

親の気持ちとしては、自分の子供が通っている学校の調理員、栄養士がいたら話をしてみたいと思う。誰が来ているかわかるように胸にシールを貼ってはどうか。

(委員)

保護者は自分の子供が通っている学校の栄養士の顔を知っ

ていると思う。

(委員)

学校に行けていないので、知らないと思う。

(委員)

個別に話ができる状態なので、話ができる環境にはある。

(宇野委員)

委託業者の方とか学校の調理をしているということがわかるといいと思う。

(会長)

参加者の名札みたいなものか。

(宇野委員)

名札のようなものがあれば、声をかけてみようと思う人も結構いるのではと思う。

(委員)

そもそも、この講演会の目的、何のためにやるのか。

(宇野委員)

学校給食や食生活全般について知識を深めてもらうとともに、小金井みんなの給食委員会の活動と指針について知ってもらうこと。

(委員)

この目的は、みんなの給食委員会の中で講演会をやる部分の目的の抜粋か。小金井の給食の理解を深めてもらう内容が無いと、どこかの先生の話で終わってしまうのであれば、みんなの給食委員会が主催する目的とずれている気がする。そのこの見解が揃った方が良いのではないか。

(会長)

学校給食及び食生活全般に知識を深めてもらうってことが書いてあるが、これが講演会の意味で、この知識を深めてもらうということは、皆さんで共有できる狙いだと思う。

(委員)

そうですかね。

(宇野委員)

小金井の給食というところでは、職員、給食現場の方たちがわかるということが貴重と考えていて、せめて名札くらいはと考えている。そして、質疑応答のところでは数人の人の話が聞ければと思っている。

(会長)

講演会は、皆さんの共有する場で、共有する場が無かったので、まずは講演会を基にその中身を共有して一緒のものにして、参加者の方からの感想をシェアして、そういう意義が非常に大きいと思う。

(事務局)

参加者は事前申込制でよろしいか。また、当日参加の対応についてどうするのか。

(宇野委員)

当日、欠席の方もいると思うので、入れてもいいという考え方もあるが、管理がしにくいから入れないほうが良いというご意見もあると思う。皆さんのご意見を伺いたい。

(事務局)

委員会主催で事務局は関与しないが、参加者の人数が限られており、事前申込制と記載が無かったため、当日のトラブルを心配して確認した。

(事務局)

給食調理委託の説明会では、会場の定員よりも申込人数が半分以下と少なかったのですが、当日、可能な範囲でお受けできたが、当日開放により定員を超えてしまう場合は大変になると思う。

(会長)

講演会ということであれば、事前申込制のほうが良いと思う。

(委員)

事前申込制にすると、申込の集計事務が発生するが委員会で担うということか。また、コロナ禍の講演会の運営経験が無いので、何をどのように気を付けなければいけないかよくわからない。

(事務局)

市のガイドラインでは、感染対策として検温し、熱があれば帰ってもらい、それから手指消毒が必要になる。それから万一陽性者が発生した場合に濃厚接触者となる可能性がある方々に連絡しなければならないので、お名前と連絡先を受付記入表に書いてもらうことが必要になる。後は、席の間隔を空けるなどの配慮が必要となる。

(会長)

細かい分担とかもう一度割り出していただき、再検討が必要になると思う。

(宇野委員)

市民委員と事務局でつめていければと思う。

(会長)

続いて講師についてだが、何かご意見等はあるか。

(委員)

率直な意見として、すごく素晴らしい先生方で国や東京都とかのレベルの講演会で講演される先生方で、現実的にできるのか不安に思っている。

(会長)

様々なお話を聞けるということは確かなので、宇野委員にお任せするという形で良いか。

(事務局)

市のレベルでお願いする場合でもハードルが高いと思う。

(宇野委員)

お話していただけるか聞いたとき、いい返事をいただいた。

(事務局)

講師をしていただく謝礼の基準があり、細かく分かれている。大学教授とか、国家公務員は役職により異なるなど、細分化されているので、それも踏まえ交渉をお願いします。

(会長)

講師については、宇野委員に交渉・調整をお願いします。
それでは、今日の確認は以上とする。

(4)その他

(会長)

どなたかご意見等あるか。

先ほどの一言コメントで新メニューとか作り慣れない普段と違う献立やメニュー開発に際しての留意点など、現場の話を知りたいということだがよろしいか。

(委員)

新メニューの開発とか、事故を防ぐための創意工夫とか、そのあたりを伺いたい。

(委員)

メニューについては、栄養士会全体で考案するものや自分で考案するものがある。給食作業が終わった後に実現できるか調理器具を使って試作することもある。味付けの改良については、使える塩分が少なくなったので、それぞれ学校で対策を取っていると思うが、ガラの量を増やすなど、出汁で味が取れるようにしているが、出来上がりの時に栄養士が味見して、給食として出せるか出せないか判断をしている。

(委員)

毎日毎日違うメニューで工夫しながらやっている。新しいメニューは、子供が喜ぶので、私たちも、より良い新しいメニューをみんな努力して考えて作っている。麺が硬かったという話があったが、食中毒防止のため中心温度85度以上には上げなくてはならないというルールがある中で作っている。

(委員)

その自治体の調査報告書を読んだ。油の温度が下がっていく中で、揚げる時間を延ばした結果、麺がしまってしまったようだ。それから栄養士と実際の調理員との間でコミュニケーションミスがあったようだ。確認をしなければいけないタイミングで確認を怠ったまま作業が進んでしまったようだ。受託会社の総括として、目の前のことに一生懸命になるあまり、子供たちという存在が薄れてしまったのが反省だということが書かれていた。栄養士と調理員が密にコミュニケーションを取ることでは防げないと感じている。

(委員)

	<p>調理員としては、朝、野菜を洗って切るという流れは常に同じだが、それを作業として認識してはいけないなど思っていて、食べてもらいたいなど思う心が常に無いと、いいものができる。チーム皆でうまくいかないと、味にも反映される。また、温度の問題とかいろいろなアクシデントがあって、時間に間に合わなくなりそうになり、焦ってしまった方が、落ち着いて対処できるようフォローしたり、調理場内の関係性が大事だと思う。</p> <p>(宇野委員)</p> <p>講演会の話に戻ってしまうが、講師の方に来ていただけるよう努力するので、実現した暁には、忙しいと思うが、準備などもあるので、なるべく参加をお願いしたい。</p> <p>(会長)</p> <p>以上で本日の小金井みんなの給食委員会を終了する。</p>
<p>次回の開催</p>	<p>(1)次回の開催日程等について 日時等 未定</p>